

学区自主防災会 2009 年度第 6 回役員会（2010.01.22）報告

一丁目自主防災会会長 笈田 昭

1．山中比叡平学区自主防災会と大津市総合防災課の学区防災に関する懇談会

午後 7 時半から午後 9 時ごろまで、大津市総合防災課の大西・藤川・中村の 3 氏の参加を得て、標記の懇談会が開催された。論点は以下の 3 点で、大津市の説明のみを記す。

1) 琵琶湖西岸断層帯の長期評価の一部改訂を受けた大津市の対応について

琵琶湖西岸断層帯南部（堅田断層）の大地震は 4500～6000 年周期で起きるとされ、1585 年に発生しているのに、今後 300 年以内の地震発生確率がほぼ 0%とされているが、大津市の体制は不変である。対応は常に最大被害を想定しているし、震度 7 以上の地震が起こりうる 9 断層を調査している。しかし、多くに断層があるし、予想し得ない地震がありうるとの認識で対応している。

2) 防災機材の備蓄は誰がどこまで責任を持つのか

中山間地帯に対しては、他所に比して食料・水の確保については力を入れている。地震発生後、実際の状況を見てヘリコプターなどを配備する。これは 4 時間以内に他府県からも集まる。自衛隊出動は県や市から要求し、先遣隊の派遣など緊急時対応となる。

備蓄に関しては、補助する程度である。

3) 避難所や福祉避難所の将来計画について

小学校（避難所）の耐震前提での改装実施設計は終了しているが、財源が厳しいので先送り？幼稚園は調査済みである。保育所は予定もなく、幼稚園との統合が考えられている。福祉避難所としての必要な構造（スロープなど）は考えるが、予算が絡むので・・・。

【結局は、予算が厳しい中、ソフト面での対応しかできない、というのが本音】

2．住宅用火災警報器の設置推進の取り組みについて

3．大津市の他学区の自主防災会との交流について

4．学区自主防災会の組織体制および地域内「防災協定」の締結の具体化

5．本年度の学区防災予算案について

蛍光腕章：安くなるようにして 100 枚ほど自前で作成する。ヘルメット：30 個購入する。

6．滋賀県の自主防災組織リーダー研修会（2010 年 1 月 14・15 日）の報告

笈田が当学区自主防災会を代表して参加したので、報告を行った。

7．次回は平成 22 年 3 月 12 日（金）19：30 から。

以上（文責：笈田）